

なぜ“挨拶”は大切なのか

今日は「挨拶」について話をします。

今の富田中の「挨拶」の現状を、みんなはどう思いますか？

きみたち一人一人が、自分の「挨拶」を、どう評価しますか？

朝、学校前の横断歩道に立つ中で、立ち止まって、私の目を見て、しっかりと会釈をしながら挨拶してくれる人がいます。朝、あの横断歩道に立っていると、坂の下から上ってくる生徒の中にも、離れて立っている私に対し、「おはようございます」と挨拶してくれる人もいます（ごく少数ですが…）。日中廊下ですれ違つると、「こんにちは」とはっきりと挨拶できる生徒もいますとてもすがすがしい気持ちになります。

しかし、今の富中の「挨拶」の現状を見ると、全体的に決して満足できるものではなく、「まだまだ」だと思います。朝の挨拶でも、挨拶のできていない人もいます。挨拶をしていても伝わってこない人もいます。友達との会話について形だけの挨拶をする人、中にはこちらから挨拶しても、挨拶が返ってこない人もいます。考えてみれば、目上の人に対して、「なんて失礼な」とも思えます。会社や職場などの大人社会で挨拶のできない人は常識ないと見なされます。

今日は、きみたちにもう一度、「挨拶」について考えてほしい。

仏教の禅宗で使用されていた【一挨拶】（いちあいいっさつ）という言葉があります。

【挨拶（あい）】には「押し開く」、【拶（さつ）】には「迫る」という意味があります。お坊さんが弟子の肩をたたいて「がんばっているか」と聞き、弟子が「はい、今日もはげんでおります」と答える。このようなやりとりが【一挨拶】であり、この問答が挨拶の語源なのです。相手の気持ちをやわらかく押し開いていく…そういった意味合いが、この漢字にこめられているのです。

では、挨拶はなぜこれほどまでに大切だと言われているのでしょうか。挨拶が大切と言われている理由には、たくさんありますが、二つを紹介します。

一つには、挨拶は、やはり社会の基本となるルールのひとつであり、常識だからです。

基本的な社会のルールとして「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」「はじめまして」などの簡単な挨拶が出来るのは、社会人としての最低限のマナーです。これが出来ないのでは、常識のない人とみなされて、社会的な評価は低くなります。

二つめには、挨拶をするほうもされる方も、気持ちが良いからです。

誰かに挨拶されたから、流れで気持ちをこめず、ただ口を動かすように挨拶をしている人がいます。これではとても機械的で、言う方も言われる方も、気持ちが良いものではありません。だからこそ、挨拶には心をこめることが大切なのです。そして相手の目を見て、笑顔で、そして相手に伝わる声で挨拶の言葉を発すること。とてもすがすがしい気持ちになるはず。気持ちの良い挨拶をしてもらえた友達や同僚たちは、もっと気持ちが良く、さわやかな気分になるでしょう。

きみたちに声を大にして言いたい。

挨拶を決して馬鹿にしないでほしい！そして、挨拶の大切さを知ってほしい。

たった数文字の言葉なのに、挨拶は計り知れない力を持っている魔法のツール（道具）です。ちょっとした言葉だけで、こんなに沢山の効果が得られるのであれば、有効活用しない手はありません。そして、挨拶には何の道具も、何の準備もありません。ただ笑顔で言葉を発するだけで人間関係を円滑にし、新しい人との絆を作り、相手を良い気分させるだけでなく、自分自身の評価をあげ、気分も良くしてくれます。

生徒会活動においても、今の富中の挨拶の現状をしっかりととらえ、生徒会執行部や生活委員会が中心となり、再度挨拶の意義を全校生で考える場を設定するなど、工夫を凝らしながら、もっともっと活発に挨拶が行き交う学校にしてほしいと願っています。

挨拶は“富中PRIDE”を形づける最も基本にある重要な行為です。

真の意味での「挨拶運動」など、生徒、教職員がともに自他に誇ることでできる校風づくりに努めていきましょう。きみたち一人一人の力強い努力とその積み重ねに期待しています。

（校長 熊坂 洋）